

GPS-777 クロック入力トランスポートの導入 (4)

—CD、アナログ、PC オーディオの比較—

1. はじめに

以前、LINN の LP12 導入時に CD をリッピングした WAV の PC オーディオ再生と同じマスターのアナログの再生とを比較しましたが、今回は CD をリッピングして CDR を作成し、CD、CDR、アナログ、PC オーディオの4者の比較試聴を行ってみることにしました。

2. CDR および WAV の作成

対応するアナログとマスターが同じ CD を 5 枚ほど準備し、リッピング後 CDR に書き込みます。書き込み用の CDR は三菱化学の GREEN TUNE を使用しました。PC オーディオで再生する WAV は CD をリッピング後、44.1KHz,16bitWAV を PC 上で 192KHz,24bitWAV に変換しました。

3. CD 再生、CDR 再生、アナログ再生、PC オーディオ再生の比較試聴

CD および CDR の再生は SA11-S2 (GPS-777 から 176.4KHz 入力) →CRV-555 (GPS-777 から 96KHz 入力) →DAC-1 のルートで再生しました。

PC オーディオの再生は SDHC メモリーカードに収納して、オーディオ仲間の自作ソフト Stream Player により、USB-201 (GPS-777 から 192KHz 入力) →CRV-555 (GPS-777 から 96KHz 入力) →DAC-1 のルートで再生しました。

アナログの再生は、ターンテーブルが LINN の LP-12、アームが FR-64S、カートリッジ SPU Royal N、トランスがしなの音蔵オリジナルトランス、フォノイコライザーがしなの音蔵オリジナルプリのフォノイコ部使用で行いました。

CD と CDR の再生の比較では CDR に三菱化学の GREEN TUNE を使用したため、その効果が表れ、ホールトーンが柔らかく聴き取れます。

同じソースをリッピング後 WAV に書き込んだものを USB-201 経由で再生すると、ディテールの掘り下げや音の立ち上がりでは CD やアナログを超えるものがあります。

アナログの場合は、音を聴き始めたとたんにはっとする安らぎみたいなものが感じられ、音の立ち上がりやディテールの再現を超えたところの良さが感じられます。

4. まとめ

これまで、以前からアナログが最上であったものが、USB-201 と GPS-777 の導入で PC オーディオがアナログに拮抗するところまでできましたが、CD 再生はこれらの後塵

を拝してきました。今回、GPS-777 からクロック入力できる CD トランスポートを導入したことにより、いずれの音質も同一レベルで論じられる集団に入ってきたと言えます。

即ち、CD の音の限界については、PCM というフォーマット、44.4KHz,16bit という入れ物の限界、回転体の振動やサーボ機構のノイズ、折り返しノイズ、デジタルノイズのアナログへの漏れなどなど、いろいろな犯人探しが行われてきました。しかしながら、GPS-777 によるクロック入力で、CD、PC オーディオ、アナログが同列に論じられるレベルに立ったことは、デジタル再生の最大の問題点がクロック品質であったことを伺わせるものであります。

なお、上記の印象はカートリッジやフォノイコ、PC の再生ソフトや DD コンバーター、クロックの入力条件の選択などによって変わってきますので、これらの微調整でいずれのメディアでも好みの音に近づけていけるものと考えられます。

以上